

大島海洋国際高等学校在り方検討委員会
(第2回)

平成29年12月26日

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課

第2回 大島海洋国際高等学校在り方検討委員会

場所：都庁第一本庁舎25階 114会議室

【事務局】開会に先立ちまして、大島海洋国際高等学校在り方検討委員会設置要綱第9条に基づきまして、本日の委員会は公開とさせていただきます。傍聴人の方は合計7名となっております。

それでは、定刻少し前でございますけれども、お願いいたします。

【出張委員長】改めまして、おはようございます。年末のお忙しい中、お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

第2回目の大島海洋国際高校在り方検討委員会をこれから始めさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

前回の議論では、委員の皆様から、大島海洋国際としてどのような人材を育成していくのが明確になっていないではないかといった御意見を頂戴したところでございます。

国の海洋政策、それから都の施策の状況、学習指導要領の改訂の趣旨などを踏まえまして、国際社会に貢献する海洋人材を計画的に輩出していくということについては特に異論がなかったのではないかと考えております。

また、別の委員から、海洋系についてはある程度キャリア像が見えるけれども、国際系については非常にわかりにくいというような御意見もありました。

こうした御意見を踏まえ、在り方を含めまして、見直しが必要ではないかということで、事務局からの提案もあったところでございます。

そこで本日は、大島海洋国際高校の学校の理念等につきまして、前回の検討委員会の議論を踏まえまして、事務局から御説明をするとともに、各委員の皆様から御意見などを頂戴しまして、教育理念等を本日決定していければと考えているところでございます。

なお、第1回の議事録につきましては、事務局から各委員の皆様にご確認をさせていただきまして、その上で、既にホームページ上に公開をさせていただいているところでございますので、この場を借りまして御報告させていただきたいと思っております。

先ほども事務局からありましたが、今後も議論を、オープンに実施する観点から、議事録の公開につきましては同様に実施させていただきます。

それではまず、事務局から、お手元の配付資料について説明をお願いします。

【事務局】事務局から配付資料の御説明をさせていただきます。

クリップ止めされておりますけれども、クリップをお外しいただきまして、本日の検討委員会、第2回次第、一番上がA4縦1枚でございます。

続きまして、次第の中段以下に記載がございますとおり、配付資料としまして、資料1「大島海洋国際高校の学校理念などの整理に関する議論」、A3横1枚でございます。

資料2「大島海洋国際高校と他県高校の教育目標・キャリア像」がA3横、資料2-1、2-2、2-3の3枚でございます。

それから、資料3「大島海洋国際高校の学校理念などの検討」がA3横1枚でございます。

最後に、資料4「教育理念（案）から考えられる具体的キャリア像」がA3横1枚となっております。

説明は以上です。

【出張委員長】それでは、早速次第に沿って、議事を進めてまいります。

本日の議事は大きく二つでございます。

大島海洋国際高校の教育理念等（案）について、それから、教育理念（案）から考えられる検討の具体的なキャリア像についてという形で説明をしてもらいたいと思いますが、まず、1の方の教育理念ですが、これについては資料1から資料3までです。これについて、事務局から説明をお願いします。

【事務局】事務局から説明させていただきます。

議事に入ります前に、前回資料及び議事録の訂正をさせていただきます。

前回資料2-2におきまして、東京都の擁する排他的経済水域について、約45%と御説明させていただきましたが、委員その他から、割合に間違いがあるのではないかと御指摘を頂きまして、関係局に確認をいたしましたところ、正しくは38%とのことでした。

ここで改めて訂正をさせていただきたいと思っております。大変、失礼いたしました。

それでは、議事に関する資料の御説明をさせていただきます。

資料1、左側をご覧ください。

前回も御説明させていただきましたが、平成17年6月の検討委員会報告書に記載されております学校像や育てたい生徒像、教育理念等について、改めて記載してございます。内容については前回御説明させていただきましたので、議論の内容とともに説明は割愛させていただきます。

資料、右側上段を御覧ください。前回の委員の皆様の御議論の内容を簡単にまとめてございます。

前回の御議論では、先ほど、委員長からも御説明ございましたけれども、国の海洋施策や都の施策の状況、学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえた上で、国際的に活躍する海洋人材を育成することについては委員の皆様に御賛同いただいていたかと思えます。

また、学校全体の理念、ビジョン、教育目標といった学校の設置目的という部分について明確化する必要があるということや、海洋系についてはある程度キャリア像が描けるが、国際系についてはキャリア像が描きにくく、見直しを含めて検討が必要との御意見もございました。

また、学校の理念、教育目標といった最上位の概念については、大島丸の航海実習に乗船中であった学校長の山寺委員から、書面により具体的な提案がございました。これは代読を頂いたかと思えます。これにつきましても特段の御異論はございませんでした。

さらには、本校の特徴である寄宿舎、実習船、海洋といった魅力を最大限に生かした教育を推進すべきといった御意見、海洋系の大学等との連携を推進すべきといった御意見、アクティブ・ラーニングを推進すべきといった御意見、寄宿舎教育と学校教育をリンクさせて学力向上をしっかりと行っていくべきだといったような御意見などがございました。

こうした検討委員会での御議論を踏まえまして、作業部会全体で集まることができなかったことから、庁内の作業部会委員で検討した後に学校へ伺って、少し議論をしてみいました。

資料、右下を御覧ください。

作業部会の委員の意見といたしましては、学校運営の基本となる考え方が体系的に整理されていないため、どのように教育してよいか不明確となり、結果として学校が様々に努力しなければならない状況が発生しているのではないかと。また、そのため、生徒の将来のキャリア像も意識しながら、学校の教育理念、目標を明確化していく必要がある。こうした意見がございました。

また、設置する類型等については、学校の理念、教育目標を明確にした上で、スペシャリスト育成を行うのか、進路選択に必要な意識付けなのかなどを考慮しつつ、大島に存する都立高校として求められる内容とすべきであるといった御意見、また、これらを基に実習船でどんな教育を行うのか、大学とどういった連携をするのか、カリキュラムをどのようにして

いくのかなどを考えていく必要があるという、次なる御意見もございました。

また、そうした教育の実践を担保するために必要な学校作り、環境作りについても、併せて検討していく必要があるというような意見もございました。

そうしたことを検討するためにも、他校の状況を参考にしつつ、東京都が設置する学校の姿を明確にしていかなければならないといった、議論をさせていただきました。

資料1についての説明は以上でございます。

次に、1枚おめくりください。資料2-1を御覧ください。

こちらの資料では、大島海洋国際高等学校のほか、海洋教育を取り入れた教育を実践している高校4校、寄宿舎教育で実績を上げている高校1校に関し、中段の列にて教育目標・育成する生徒像の学校の理念、その右に設置学科、一番右の列に学科ごとの目標や具体的なキャリア像を記載しております。また、左から2番目の列には、その概要・ポイントを記載してございます。それぞれの特徴について、2番目の列の概要・ポイントを中心に御説明をさせていただきます。

まずは一番上、大島海洋国際についてですが、これまで御説明させていただきましたとおり、また、御議論ございましたとおり、教育目標が具体的・体系的に整理されていないのではないかとしたことや、類型ごとのキャリア像も明確ではないのではないかとというようなことがあったかと思えます。

その下、福井県若狭高校、県立の高校でございます。こちらを御覧ください。

教育目標では、普通科、文理探求科、海洋科学科という異なる性質を持つ学科を擁する学校の特性を生かしまして、異質なものに対する理解と寛容の精神を養い、教養豊かな社会人の育成を目指すというものを教育目標に掲げています。

教育目標に対し目指す生徒像を「リーダーとして地域や社会に貢献できる生徒」とし、その実現を図るための三つの努力目標を定めています。

また、三つの異なる学科ごと、一番右を御覧ください、異なる学科ごとに目標を定めまして、特に海洋科学科ではキャリア像についても明確に言及しているところでございます。

1枚おめくりいただき、資料2-2を御覧ください。

上段の、県立になりますけれども、宮城県気仙沼高校の説明でございます。

第1回検討委員会で御紹介させていただいた学校でございますけれども、気仙沼高校は普通科でSGH（スーパーグローバルハイスクール）指定を受けまして、海洋を題材とした教

育を実践している学校です。普通科の高校として、三つの校訓の下に具体的な教育目標を定めまして、目指す生徒像を生徒に示しながら、各類型ごとに合った大学進学をさせるための教育をしているということでした。こちらについては校長先生にも内容を確認してございます。

資料の説明、前後して恐縮ですが、基本的には各校のホームページ、公表資料、また、各校への電話ヒアリングによって記載をしてございます。

続きまして、中段下、山形県立加茂水産高校を御覧ください。

加茂水産高校では、海・船・水産物のプロフェッショナルを育成することを教育目標としまして、それを下に、生徒の行動目標、教育方針、経営方針、重点目標をそれぞれ定め、学校運営を実践しているとのことでした。

設置学科は海洋技術科と海洋資源科の二つで、それぞれの学科目標とキャリア像を明確に定めております。右側の方に学科目標、キャリア像を記載してございますが、具体的なものとなっております。

1枚おめくりいただき、資料2-3の御覧ください。

上段、神奈川県立海洋科学高校でございます。

こちらの高校では、スペシャリストの基礎を育成、キャリア教育と生きる力を育成、自律性と心豊かな人間性を育成するという三つの教育方針を掲げまして、海洋科学科の一般コースと船舶運航コースの二つのコースで、大学等への進学も視野に入れた教育を実践しているとのことでした。

最後、下段、三重県の私立桜丘高校でございます。これも第1回検討委員会で御紹介させていただきました学校です。

こちらの高校は、海洋を取り扱っている高校ではございませんが、寄宿舎教育により、優れた実績を上げている学校として紹介させていただいております。

教育理念として、1から6まで記載がありますが、主に英国イートン校をモデルにした全人教育というものを掲げています。そうした理念の下で育成すべき生徒像を設定し、コースごとの目指すべき大学に必要な教育を実践しているとのことでした。

このように、高校ごとにさまざまな教育目標やキャリア像がございしますが、どの高校においてもおおむね明確なビジョンを設定し、卒業後のキャリア像を、これもまた明確にしている。その上で教育を実践しているということが言えるかと思えます。

これらの状況を踏まえまして、資料3により、本日の御議論の中心となります大島海洋国際高校の理念などの検討結果、検討結果に基づく案の御説明をさせていただきます。

資料3、上段を御覧ください。

一つ目のポツにございますとおり、海洋国際高校が目指すべき普遍的な教育理念を策定する必要があるということ。また、対外的な発信はもちろん、生徒・教職員が誇りを持って学校諸活動を行うための、インナーブランディングの中心としてのスローガンといったものも明確にするべきではないかということ。これまでの大島海洋国際高校の良い部分、伝統などを引き継ぎつつ、検討委員会での御意見を基にまとめていく必要があるという考えておりました、委員の皆様御議論の結果から、今後の大島海洋国際高校が目指すべき、以下五つの方向性を基礎にして検討してまいりました。

資料、中段以下を御覧ください。

こうしたものから、普遍的なものとしての教育理念、これを端的にあらわすスローガン、教育理念を達成するための教育目標という構成で、案を策定してございます。

まず、教育理念ですが、先ほど御説明させていただきました、理念等の整理に向けた五つの方向性、これは下地にいたしまして、第1回検討委員会での学校長の山寺委員の意見を踏まえまして教育理念案を、「海洋教育、海洋資源の保全と活用への高い意識と実践力を育成することで、海洋に関する地球規模での課題に果敢に取り組み解決していく、国際的に活躍する海洋人材を育成する。」とさせていただきました。この教育理念は、学校での教育諸活動の全てをこの理念の下に実践するというものであり、生徒・教職員はもちろん、学校教育に関わる全ての学校コミュニティの方に理解していただく必要がある内容だと思っております。

この教育理念案の理解を広めるためにも、教育理念案を端的にあらわすスローガンを、これまでもPRに活用してまいりました「海を通して世界を知る」とさせていただきました。このスローガンは、学校案内やホームページでの活用はもちろん、校章や校歌などとともに、先ほども申しましたとおり、生徒・教職員が誇りを持って活動するための手段としても活用を図るものと考えてございます。

さらにその下、教育理念を達成するための教育目標といたしまして、これまでの教育目標にもございましたけれども、海洋教育と全寮制を通して、自然に対する謙虚さ、勇気・決断力を養い、誠実・礼節・協力の精神を育て、国際的に通用する海洋人材として自律した責任

感ある人格の形成を目指す。なお、誠実・礼節・協力については、校訓として、学校の校是として、今も活用されているということでございます。

また、実習船大島丸、寄宿舎、海洋という自然といった、大島海洋国際高校ならではの魅力と特長を最大限に活用した教育を実践すること。

また、次のポツで、地域、産業、大学等と連携した教育を実践することで、さまざまな視点から課題を発見し解決できる教育を実践すること。

学校教育と寄宿舎教育との連携を図り、学力の定着・向上と課題解決能力などを養うこと。

専門教科と普通教科が連携したカリキュラム等による教科横断的な学びを推進するといったことを実行するための、五つの目標として設定をさせていただきました。

この五つの教育目標は、これまでの学校活動における目標、本検討委員会での御議論、本校への御期待、学習指導要領の改訂の趣旨、国や都の施策などをまとめ、本校での教育諸活動を行う際に必ず実践すべきもの、理念を実現するための具体的な目標の案として設定しているものでございます。

長い説明となり恐縮ですが、資料3を中心に御議論いただければと存じます。

事務局からの説明は以上でございます。

【出張委員長】 ありがとうございます。

資料1から資料3まで、非常に短時間に御説明いただきました。

資料1では、前回の検討委員会での議論に基づいて事務局での検討状況、それから、資料2-1から3が他県の状況です。教育理念等の状況の説明を頂きました。

今日は主に資料3のところ、ここで大島海洋国際の学校理念について、この資料に基づいて御議論いただければなと思っております。理念、それからスローガン、目標、これについて御意見を頂戴できればと思っております。よろしくお願ひいたします。

わからないところなどございますか。では、資料で御質問等あれば。

【増渕委員】 すみません、ちょっとわかれば教えてほしいのですが、資料2-1のところいろいろな学校があるのですが、この学校の定員、それから、学科ごとの定員がもしわかったら教えてください。

【事務局】 今、資料を確認しますので、ちょっとお待ちください。

【出張委員長】 はい。

そのほか、何か資料でわからないという御質問等あったら、出していただいても結構です。

事務局、私の方もちょっと見落としていたんですけれども、資料1の右側ですけれども、議論の概要のところありますよね。これ、国の海洋政策や学習指導要領改訂の趣旨を踏まえて。

【事務局】 はい。

【出張委員長】 改訂と、言葉では言われていたけど、文字が抜けていますよね。

【事務局】 はい。大変失礼しました。

【出張委員長】 入れておいた方がいいかもしれないですね。

【事務局】 はい。

【出張委員長】 その下の段のポツ、これの三つ目のポツございますね。「設置する類型などについては」と、この2行目のところは、学習指導要領改訂の、「改訂」を入れておいた方がいいかもしれないですね。

【事務局】 はい。「学習指導要領の趣旨」のところについては、全て間に「改訂」を入れさせていただきます。大変、失礼いたしました。

【出張委員長】 今、事務局は、増淵委員の質問を調べています。もうちょっと時間必要ですか。

【事務局】 手持ちの資料はちょっと今……

【出張委員長】 今はないんですか。次回でも、一覧表にして用意してもらいますか。

ほかにいかがですか、資料等は、ここは。

どうぞ、山寺委員。

【山寺委員】 資料1で、右欄の検討委員会での議論を踏まえた検討の二つ目のポツですが、ここをもう少し詳しく説明していただきたいなと思ひまして。

【出張委員長】 「現行の」というところですか。

【山寺委員】 そうです。現行の理念が教育基本法や学習指導要領、都教委の目標などと合致するものが多いから整理するというのは。

【出張委員長】 では、事務局から説明してください。

【事務局】 例えば、学校像③、育てたい生徒像②、教育理念②、これはほとんど同じことを言っておりますが、これは教育基本法に記載の内容にほぼ合致します。当然のことながら、法律に記載されている内容ですので、殊さらここで言う必要がないのではないかというのが議論の中身だというように御理解いただければと思います。

また、例えば国際社会に、育てたい生徒像のコミュニケーション能力、それから、教育理念にも③でコミュニケーション能力、それから、育てたい生徒像のグローバル、⑤です。同様に、教育理念の⑤、グローバルといった、同じことが記載されている中身もございます。

こうしたものについて整理をする必要があるということから、法律や教育目標、都教委の教育目標に記載されているものについては、たくさん書くとわかりづらくなるので、当然のことながらやるものとして、それについては記載をせず、本校の特徴や期待されている内容についてのみ整理をして今回記載をしてきたということでございます。

【山寺委員】つまり、重複しているところを整理するという、そういう……

【事務局】重複していることを整理と、教育基本法や教育目標、都教委の教育目標に記載されているような内容については、当然実施すべきものとして削除するという整理でございます。

【出張委員長】山寺さん、いいですか。

【山寺委員】はい。ありがとうございます。

【出張委員長】明確にしていこうということですね。各学校やらなければならないところというのはもう削除して、大島海洋国際のポイントの部分を明確にしようということ。

ほかにかがですか、資料の関係で。

かなりいろんな学校を事務局の方で調べてもらいまして、確かに、見てみるとボリュームが、海洋国際はかなり細かく書いているなというのが資料2-1を見ていただくとわかるんですけども、この辺をもうちょっと整理して、わかりやすい形にしていこうということをして今やればということですか。よろしいですか。

資料についてはいいですか。

それでは、やはり資料3に進んでいただきまして、この部分について、特に中段以下のところですね。教育理念などの案という形で、教育理念、スローガン、教育目標とありますが、スローガンは今も使っているものなので、よければこのままで使うといいのかなと思いますけれども、特に教育理念、教育目標のところ、御意見を頂戴できればと思います。

どうぞ、山寺委員。

【山寺委員】教育理念ですけども、前回、私、欠席しておりますが、鈴木の方で代わりに私の趣旨を代読させたわけですけども、それが色濃く反映しているような形になっております。教育理念（案）については、これ、ほかの学校との比較というわけではないですけれ

ども、資料2の方にあった資料で、ほかの学校のを見ると、本校のものはちょっとボリュームがあるからすっきりさせた方がいいという、そういう趣旨があるという。

私は、この教育理念というのは、これまでの大島海洋国際に五つほどあった理念、教育理念、これプラスアルファのことが欠けているからという意味合いで提示したんですけれども、殊さら、これだけがばんと出てしまうというのが少し気になります。ほかのものは全くいいのかというのは御議論いただきたいなと思います。

【出張委員長】何か事務局ありますか。

目標の方に入れてきているのではないですか。

【事務局】これまでの教育理念のところに記載されている内容が、少し具体的に学校が実施すべきことが書かれているように思えましたので、校長先生とも少しお話をさせていただいたときに、理念として目指すべきところと、その目指すべきところに対して実際に行動を起こす行動目標みたいなものについて、概念の整理としては、やっぱり目的があって、その目的に向かって実行すべき目標を定めていくということから、こういう整理にさせていただいているところです。

【出張委員長】いいですかね。

ですから、できれば理念の方に大きなものをどんとやって、その細かいところは教育目標の方で具体的なものを入れていくというような形で、事務局で多分整理をしてきたんですね。

【山寺委員】承知しました。

【出張委員長】何かほかにありますか。

【山寺委員】続けてですが、この資料の中に海洋人材とか海洋教育とかという言葉が出てきますし、前回もそういう言葉が使われていたと思いますが、海洋人材と海洋教育という定義は、つまり、海洋教育と言ったとき、皆さん、どういうことを思い浮かべますか。海洋人材ってどういう人材ですかっていうのが少しずれていると、そうではないとか、今度、各論に入っていったときにちょっと戸惑う可能性があるかなという、そういう疑問が残っています。

【出張委員長】その辺はどうですか。

山寺委員は校長先生ですから、一番イメージをお持ちだと思いますが、どういうイメージを持たれているんですか。

【山寺委員】広く海を通じてのものに携わる者を海洋人材と思っているのですが、その中に、いわゆる海洋教育というか、これまでやっていた大島南、今もやっていますけれども、航海

実習、そこで船員の育成、それが商船であるのか、漁船であるのかということもありますけれども、そういった船乗りになったりする。それから、大学、海洋系の大学に進学して研究していく。ただ、海洋系の大学に行って研究者になるのはごくごく一部になってしまうとは思いますが。

あと一方で、その中に水産に関わる産業というのがあるので、水産に関わる産業がどれだけこの海洋教育といったときに皆さんイメージされているかなというのは、少し疑問に思っています。

【出張委員長】 前回の何か資料に入っていましたか。

【事務局】 前回の資料、お手元にもしあればですけども、前回の資料でいうと、資料2-2の右側に、具体的なイメージできる海洋人材みたいなものは記載して……

【出張委員長】 お持ちですかね。みんな持っていないかもしれない。

【事務局】 ちなみに、そこを整理しまして、この後の御議論を、資料4の方に具体例みたいなことを整理はしております、山寺委員に御質問いただいた水産に関わるところをどう考えているのかということについては、資料4のところ、左から2番目の辺りがそれに当たるものだというふうに考えております。

【出張委員長】 非常に広く海洋教育って捉えてはいるんですけども、そのイメージを、これを本当は資料4でさらにブレイクダウンしていこうとは思っていたところで、一応、その中の養殖等のところの開発研究とか、水産加工などというのは一応視野に入れているんですけども、そのイメージをこれから固めよう、皆さんと相談しようと思っているところなので。

非常に貴重な御質問をいただいて、ありがとうございます。

ほかにどうでしょうか。

今みたいにいろいろ御発言をいただくと大変助かりますが。

【丹羽委員】 今、山寺先生がおっしゃられましたが、海洋教育については基本的にすごく広い概念だと思っていて、例えば、狭いものだったら海事教育というのがそれですよ。あと、水産教育もそうだと思いますし、また、海洋科学教育みたいなものもそうだと思いますし、それにプラスして、いわゆる離島振興とか、地域振興とか、そういうものも海洋教育に入ってもいいのではないかなというように思います。ほかの、例えば若狭高校とか気仙沼高校、何か先ほども、若狭高校などは地域や社会に貢献する人材というようなことを教育目標とし

て掲げていますし、そういうようなことも入って。今この提案してもらった教育理念からは、そういうことがちょっと見えにくいのかなと思います。

【出張委員長】事務局、何かこれに。

この教育理念では、離島振興なども入っているだろうし、何かそれがわかりにくいのではないかなと思います。

【丹羽委員】だから、海洋保全というときに、そこにも離島振興も入ってもいいと思いますし。だから、この海洋環境、海洋資源、かなり狭い印象があるんですけども。

【出張委員長】ここの頭の部分がね。

【丹羽委員】例えば海洋保全とか海洋の活用とかというところに入れれば、もう少し広く、捉えられるのかなという気がしましたが。

【出張委員長】やや限定が掛かっているような感じなんですね。

【丹羽委員】そうですね。

【出張委員長】「海洋環境、海洋資源」となっているところを取ってしまって、「海洋の保全や海洋の活用」とか。

【丹羽委員】そうですね。

【出張委員長】そうしていった方が、より広がりがあるのではないかという貴重な御意見を頂いたのですけれども。そうですね、これは、ちょっと限定が掛かっているように見えますね。これも貴重な御意見です。

ほかにいかがでしょうか。

どうぞ、事務局。

【事務局】丹羽委員から御指摘があったうちの前段の地域社会ということですので、それをどこに、もしそれを盛り込むとするならばどこに差し込むかというのがあると思うのですけれども。

【丹羽委員】教育目標の中にそういう文言があってもいいのかなとは思っています。教育理念の中には余り、そこまで限定して入れる必要はないのかなと思いました。もう教育理念も海洋の保全と活用という形の言葉で十分かなとは思いますが、教育目標の中に。

【事務局】新たに項立てをするということですか。

【丹羽委員】はい、自分はそういうふうに。ほかの若狭高校とか気仙沼高校というのは、基本的には地元の生徒が行く学校ですが、大島海洋の場合は地元の伊豆大島出身の生徒だけが

行く学校ではないので、逆にそこをいいように捉えれば、今までそういうことに全く関心がない子が、そういう離島振興なり、海洋のことに目を向ける非常にいい機会となります。内地に暮らしていたら、なかなか得ることができない視点を得られる非常にいい学校だと思うので、そういうところも入れてもいいかなと、学校の特徴として入れてもいいのかなと思いました。

【事務局】 はい。

【出張委員長】 三つ目のポツあたりにちょっと加えていくという手もあるかもしれないですね。地域って、具体的な離島振興など地域や、地域の産業ですか。

【事務局】 はい。

【丹羽委員】 大島だけではなくて、もう日本全国の離島というようなイメージで捉えてもいいのかなと思いました。

【出張委員長】 その辺、ちょっと加えていくという手がありますね。

【事務局】 はい。大島のみならずというイメージですね。

【丹羽委員】 そうです。

【出張委員長】 ほかに、いかがでしょうか。

田島委員、いかがですか。

【田島委員】 教育目標のところでは教えていただきたいのですが、何か海洋という言葉が出過ぎてしまって、国際系がちょっと見えなかったのです。

【事務局】 国際学科として、うちの学校は活動を今しているわけですがけれども、仮に国際学科ではない学科とかという検討をした場合には、異質な学科が存在することになる。総合学科というか、総合高校のような形になる。であるとすれば、本来、国際というのは、今の大島海洋国際の教育理念や育てたい生徒像にもございますけれども、グローバルの視点でいろんなことをやらなければいけないというのは、あえて、一つのコースとかに限定して教育をしていくということではなくて、その土台となる、学校全体でやるべき内容ではないかというようなことから、国際ということについては、一番上の理念のところでは、国際的に活躍する人材を育成する。したがって、それ以下の内容については全て国際的な活動をやっていくんだというふうに、考え方としては整理しているところです。

【田島委員】 そうしたら、逆に、今、海洋の話が出てきたのですが、実際、前回、第1回目のときに、教育課程がこれぐらいになっているよというように、説明がありましたが、逆に、

この教育数で足りるのかなというのと、プラスで海洋の勉強を取り入れていくのかというのと、あと、この最後のところに「専門教科と普通教科が連携した教科横断的な学びを推進する」ってありますが、これって何だろうなど。

【出張委員長】その辺、2点あったと思うんですけども、事務局の方から、どちらからでもいいんですけども。

【事務局】国際の話ですけども、国際そのものは、今、カリキュラムが国際系と海洋系と分かれています。これは私が説明するより、もしかすると学校さんが説明した方がいいのかもしれませんが、国際系で殊さら国際をやり続ける。そうすると、大島海洋国際高校で、この教育目標にも記載させていただいていますけれども、自然、大島丸、寄宿舎といった特徴を生かしていく教育の中で、田島委員から今ご指摘ございましたとおり、国際類型については2年生以降、全く海洋系の勉強をしないで最後まで卒業することも可能です。

そういったカリキュラムが本当にいいのかどうかと考えていく中で、国際というのはやっぱり理念のところにございますとおり、全体に係る内容なので、カリキュラムを組んでいく上においても、国際的な内容というのは全てに、広く全体の生徒にやるべきなんじゃないかと、今の段階で、事務局の担当としては考えているところです。まだここはあまり議論してございません。

専門教科と普通教科が連携した教科横断的な学びというのは何かということですけども、これも教育の内容なので、もしかすると私が説明するのはちょっと違うのかもしれないのですが、例えば専門教科を単に専門教科として実施するだけではなくて、例えば、専門教科の中で出てくる歴史的な事象を学ぶタイミングを、地歴公民の事象と併せて考えられるようなシラバスを組んでいくとか、そういったことが考えられると思います。普通教科は普通教科だけでやる、専門教科は専門教科だけでやるということではなくて、それぞれが相互に関連を持って勉強していくことによって、より理解が深まる。

そんなことを考えていますけれども。

【オブザーバー（指導部高等学校指導課長）】やはり、教育理念のところの、まず、具現化する、「国際的に活躍する海洋人材を育成する。」というところに視点を置いて、専門教科と普通教科で、この海洋人材を育てるために、どういう視点の学びが必要なのかというものをきちんと整理させて、それを専門教科と普通教科が、それに基づいて、お互いで授業をきちんとやっていくということかと思います。

【出張委員長】そうですね。今、田島委員の御指摘のとおりです。先ほど改訂が入るよというのを足したのはそこなんですよ。学習指導要領が改訂されまして、その中でカリキュラム・マネジメントをするよという、国の方からありまして、それというのは、学校としてどんな子供を育てたいのか、そのためにどんなことをしたらいいのかというのを考えるんですね。それが各教科でも考えて、一つの体系的にしていかなければいけないんです。だから、社会科は社会科だけをやっていけばいいのではなくて、海洋国際高校の子供にはこうなっしてほしいというものがある。それに向かって各教科の先生たちも、では、どういう教育をするか。それが連携すれば、よりいいものになりますよね。そういう意味でこれを書いているんですよ。

【事務局】はい。

【出張委員長】きっと、それは大島海洋国際に限ったことではなくて、今、都立高校全てがカリキュラム・マネジメントを、先生方が勉強してつくっていますので、大島海洋国際についてもこういうのをしっかりつくりましょうねということがここに書かれているんだと考えていただければと思います。

よろしいですか、事務局。そういうことですよ。

【事務局】はい。ありがとうございます。

【出張委員長】ただ、田島委員が言われたように、国際が、どこの学校でもやるというのはわかるけれども、そう言われてみると、薄くなってしまっているのかなという。

その辺はどうですかね、事務局。

【事務局】最終形というか、目指すべき議論の最終的な部分というか、それぞれ、資料4のところでは本当は少し触れたいところだったんですけども、いろいろな教育がそれぞれに、キャリア像を明確にして実践していく中において、絶対的に国際的な要素というのは必要であると考えています。説明が重なりますけれども、もちろん外国語教育、それから異文化理解教育、そういったものについては、どのコースを選んでも学べると考えていまして、そういう考え方から理念のところには記載しておりまして、教育目標のところには記載をしていないわけでございます。

ただ、それを記載しないということが必要ないということではないので、わかりにくいということであれば、全ての生徒たちに対してグローバル、こちらの今の教育理念、山寺委員から先程ありましたけれども、今の教育理念に追加というイメージだということであれば、

その教育理念で具体的に実施しようというようにブレイクダウンして、教育目標の方にグローバルな視点で常に云々というような文言を……

【出張委員長】加えて。

【事務局】教育目標の方に加えることについては、御検討いただいて、了承を頂ければ入れさせていただきたいなと思います。

【出張委員長】その辺、山寺委員、どうですか。

【山寺委員】事務局が初めに言っていた考えと、私、かなり似ているんですけども、国際教育って、今後の大島海洋国際の教育内容が海洋人材の育成の方が中心となっても、全体に国際教育というのはかぶっているという、そういう理解を私はしているんですね。これまでだと、海洋系と国際系と分けていて、国際教育を中心にやっていこうという考えだったんですけども、国際教育というのは全部の生徒にかけるという、そういう考えを私は理解しています。そういう方向でいきたいと思います。

具体的に、教育目標に載せるんだったら載せていただいても結構ですし……

【出張委員長】ただ、田島委員からも、その辺どうなんですかと。ぱっと見たときにもわかるようにするためには、事務局の方で検討して、入れていってもいいのかもしれないですね。

【事務局】はい、承知しました。

【出張委員長】名前が海洋国際高校とあっていて、確かに、今、田島委員が言われるように、教育目標のところを眺めると、海洋系のことは結構書いてあるんだけど、あれ、国際、どこへ行ったのかなっていうことがあるようなので。

【山寺委員】ですので、全部に国際系を、国際教育というのは掛かっているという、そういう考えです。

【出張委員長】事務局、いいですか。

【事務局】はい。次回ご提案をさせていただきます。

【江藤委員】現在は海洋国際学科で国際系と海洋系、年次が進むにわたってカリキュラムが変わって行って、二つのコースがあるように認識していますが、今のお話を聞いていると、そもそも海洋国際学科なんだから、要は、全部に国際が掛かっているということでしょう。そうすると、現在ある国際系と海洋系という形の、分類の仕方ではなくて、恐らく資料4に用意されているものから推察すると、全体に国際が掛かった上で、どちらかというと水産系のコースなのか、そうではなくて環境系のコースなのか。要するに、今までの国際学科の二

つの類型をもう一度全部見直して、そこがもしかしたら三つなのか、四つなのかわかりませんが、そういう形に改編していくという議論の前提で、今その話がなされているのかどうかというのを質問したいです。

【事務局】在り方そのものを検討する委員会とさせていただいていますので、この間、事務局内、それから関係者、学校さんと議論をしていく中で、一番問題になるのが国際類型で、そここのところは一体、海洋国際高校、大島にある学校として一体何をやるんだというのが明確でないということと、あと、もう一つ、大きな要素として、国際系で水産に関することをほとんど学ばずに、実習船で一体何をやるのか。その他、海洋に関する部活動等もありますので、大島海洋国際って一体何をやるのかというのが一番不明確。ですので、冒頭にも御説明申し上げましたとおり、特徴として、寮教育、実習船、海洋、これが大島海洋国際高校の特徴です。そこに、そういった特徴を生かしながら、国や都が考えること、都民、生徒のニーズということを考えていくと、やっぱり海に、大島にある都立高校としては、海洋系の人材を育成すべきなんじゃないかと考えています。

これまでは、海洋を学びながら国際人を育成するというのが、教育の理念の方に記載があったかと思います。それだと何だかわからない。海洋を通じて国際人を育成するだとわからないので、やっぱり海洋国際高校としては、海洋を通じて国際人ではなくて、国際的に通用する海洋人材。海洋人材の定義については先ほど山寺委員からもありましたけれども、そういう方向性に転換したいというのがこれまでの議論でございます。

学科の改編とかということも視野にはあると思います。

【江藤委員】そういう前提で動いているというのを確認したかったということで、それを質問したんです。ですから、海洋国際学科という中の、この二つの類型については、国際という部分については全てに掛かるんだ。まさしく海洋国際学科なんですから全てに掛かっているんで、先ほどからお話を伺っていると、教育理念の中でも、最後の結びが海洋人材と結ぶということからして、要は、海洋国際学科なんだけど、今の時代は海洋科なんです。その海洋科の中で国際的なグローバル人材を育てるのは当然でしょうということからすると、要は、大島海洋高校という議論でスタートして、その中でもう一度、その学科、その類型も考えましょうという議論でよろしいのかという質問なんです。

その前提が明確ではなかったもので、皆さんこだわっていて、国際がどうだ云々といったら、いや、国際って全部掛かっています。今の都立高校に関して、グローバル教育というのは欠

かせないものですからというような議論、意見が出たので、そうだったら、極端な話、そこまで一旦立ち返って、ここでもう一回議論するんですかということを質問したかったんです。それでよろしいんでしょうか。

【事務局】殊さら海洋だけの学校にするつもりもないのですけれども、都立として、どういう人材を育成していくのか。大島にある学校として、どういう人材を育成していくべきなのか。海洋に特徴のある学校として、どういう人材を育成すべきなのかという視点でいくと、おっしゃるとおり、海洋にすごく振っているように見えるかもしれませんが、学校をどうしていくべきかという検討をするときに、じゃあ、大島にあつて実習船もあるのに、国際をやる学校、国際をメインとする学校で本当にいいのか。現時点では国際学科で国際をメインにやるコースがあるわけですから、それをやっているんだと思うんですけれども、それによって、実際の生徒の志望とか、保護者のニーズであるとか、そういうところからすると、本当に海洋に行きたいと願っている生徒もいますし、国際に行きたいと思っている生徒もいるんですけれども、国際に行きたいと思っている生徒の、その先の進路とかそういうのも明確にできない。やりにくい。それが国際学科として国際コースに行くのであれば、なぜ1年生のときに水産をやっているんだらうとか。そういったところもなかなか整理がしづらいので、海洋人材の育成というのを前提にして考えた方が考えの整理がしやすいのではないかというようなことで、こう整理をしているところでございます。

【初宿副委員長】今まで理念の部分で、これだけたくさん議論が出た。つまり、言い方を変えると、課題もあるし、期待もあるのだらうと思います。

例えば、企業などで理念というと、わかりやすさというのを求められて。私たちがここで議論してまとめた教育理念で、私たちの手から離れたときに、都民の方がどう受け止めるのだらう。これ、わかりやすくなければいけない。誤解がないようにしなければいけない。

さあ、その中で、どういう理念がいいのかなと考えていったときに、スローガン、これは皆さんは異論がない、このスローガンだよねという議論があつたように理解しております。つまり、「海を通して世界を知る」、すごくシンプルにわかりやすく書いてある言葉だなというように思いました。これが教育理念になってもいいのかなというのを少し思ったところです。

その背景の一つに、今の大島海洋国際の取組の中で、保護者の期待、それから子供たちの期待、満足度も高いのが寮教育、これが一つある。特徴でもある。

実は、資料の中の三重県の桜丘高校、私立ですけれども、教育理念の一つに寮教育というのもきちんと入れているんですね。

特色、そういったものも取り込んだ理念を作り上げている中で、たくさんの期待、課題がある大島海洋国際の中で、どう皆さんがすっと落ちるといえるか、いろんな課題、期待を背負った理念で仕上げられるだろうといったら、今ある言葉で言うならば、まさにこのスローガンの部分ではないかなと、議論を聞きながら思った次第ですけれども、この辺のスローガンを教育理念にすることについて、学校長であられる山寺先生がどんなふうに思われるのか、御意見を頂きたいなと思ったのですが、いかがでしょうか。

【出張委員長】山寺委員、いかがですか。

【山寺委員】「海を通して世界を知る」というスローガンそのものは、私も着任当時から、すごくフレーズとしてはわかりやすくいいなと思っていました。今、初宿委員から頂いて、それが教育理念になってもいいのではないかというお話でしたが、そこはそうだなとは感じます。

【初宿副委員長】ついつい、スローガンとして使っていたものを教育理念という重たいもの上げるためのためらいも私自身にもあります。その中で、実際、このスローガンを教育理念としたときに、学校長として、それを掲げて、これから大島海洋国際の教育に邁進していくのだと、やっていけばいいのですけれども、ちょっとやりにくいとか、私が想像できないような課題もあるのではないかな。ついつい、こういう議論を聞きながら、私の中ではイメージとして持ってしまったのですけれども、この場限りで決めてしまう安易な形ではよくないなと思いつつも、わかりやすさというのはちょっと拭えないなと思いつつも、校長先生の御意見を聞かせていただければ。重たいものを質問して申し訳ないなと思いつつも、その辺はいかがかなというのをお聞きしたい。

【山寺委員】使い方としては、スローガンとして使っている方が、これまでもずっとやりやすかったです。

したがって、教育理念があつて、それってどういうことっていうときに、「海を通して世界を知る」ってことだよというように、現状では、スローガンに行きつく。スローガンを教育理念に上げたときにどうなるかというのは、詳しく考えたことがなかったので。

【初宿副委員長】そうですね。

【出張委員長】そうですね。上に上げて、ただ、今、教育理念の案があるところ、これをタ

イトルのようにして、その下に入れる。これだけだと、きっといろんなことを言い出してしまわないかと思います。確かにいい言葉なんですよ、とっても。でも、何やるのといったときに、教育目標で言っているよというのものもあるかもしれないけれども。

【初宿副委員長】「海を通して世界を知る」という言葉が、今の大島海洋国際の中ではすごく大切にされてきている言葉なんだろうなというのが伝わってきたんですね。そういうみんなが大切にしている部分を、できるのであれば教育理念にうまく昇華させる。そのような使い方、位置付け方もあるのかなと思います。

ただ、これが、今この場の議論を聞きながら思ったことですので、いろいろな視点からの意見というのはあると思ひまして、是非聞かせていただきたいなと思っています。

【出張委員長】スローガンを教育理念に上げたらどうかという御意見という形で頂戴しました。

事務局、何か、いいですか。

【事務局】スローガンは、今、初宿委員の方から御指摘ございましたとおり、やっぱりスローガンという形で、一言でわかりやすい。何を言っているかがわかりやすいというのは必要だと思います。

教育理念も、校長先生から頂いた内容を整理して、短くしている状況です。ただ、よく読んでみると、確かに長い。まだまだ長い。

要するに、海を通じた国際人を育成するんだ、ということから、国際的に通用する海洋人材を、海や寮教育や実習船を通じて育成していくんだということについては異論がない部分なのかもしれませんので、海洋の保全、海洋の活用というような言葉も丹羽委員から頂きましたけれども、当然、それをやっていくものであれば、そちらを教育目標の方に降ろして、理念の方はもっと簡単にするというのは、やり方としてはあるのかもしれませんが。

ちなみに、私が以前所属していた首都大学東京では、教育理念、大学の方針が、「大都市における人間社会の理想像の追求」という言葉だったんですけれども、わかりにくいということで、大学内で議論がありまして、今、正式に活用されているかどうか、ちょっと確認できないんですけれども、「学問の力で東京を豊かに」という分かりやすい内容に整理しようというような検討もございました。

そういうことを考えると、短く端的に分かりやすく示すというのは、初宿委員の言うとおりと事務局としても考えます。

具体案で言えば、海洋の保全とか海洋の活用、高い意識・実践力を育成するというのは当然でありますので、これを教育目標に加えるとか。

【出張委員長】では、「海を通して世界を知る」ということで、海洋教育を通して国際的に通用する海洋人材を育成するというぐらいになるんですかね。

【事務局】国際的な海洋人材を育成するというのが最終的な理念だと思いますので。

【出張委員長】そうか、国際的な、という方が端的かもしれませんね。

どうでしょうかね。御意見を頂けないでしょうか。そうすると、両方入ってきますね。海洋も入っているし、国際も入ってくるし。すっきりしているかもしれませんね。

増渕委員、いかがですか。

【増渕委員】スローガンの「海を通して世界を知る」というのが理念みたいなので、その理念はどういうことなのという説明として、今ここにあるような、こういった感じなのかなと思いつながり伺っていたんです。

理念とスローガンと目標、この三点が必要なのかというのはよくわかりませんが、でも、教育目標はどうしても必要だと思うんですね。この教育目標のさらに上位概念としての理念はやっぱりあると思います。これは学校としてミッションだと思うので。そういった意味で、この三つ全てが必要なのがよくわかりません。理念のところ、最終的な文言はどうなるかはともかくとして、この理念の2行をもう少しわかりやすく整理して、誰もがわかって、具体的な学校像が描けて、海洋と国際が両方ともここに包含されるようなというのがあるのは、せっかくここで検討しているのであれば、何かそういう感じがいいなと感じます。

【出張委員長】貴重な御意見、ありがとうございます。

ほかにどうですか。

田島委員、どうですかね。

【田島委員】何か根本的な話になってしまっているような気がしておりますけれども、ほかの県立高校とか、宮城と山形とか、見ていたんですけれども、確かに、教育理念はないなと思いつながり。私立のところだけあるんですよ。

【出張委員長】これ、教育理念、あるんでしょう。ないんですか、ほかの県立。

【事務局】都立高校の中にも、高校改革をしていく中で検討して、教育理念を明確にしている学校もございます。

大島海洋国際高校については、教育理念という最上位概念みたいなものを設定せずに、学

校像、育てたい生徒像、教育目標という整理の仕方をしています。順番もこのとおりです。

先生たちがいつも教育を行うときに、生徒に指導するときに、何を頭に置いて指導しなければいけないかということを理念として定めたい。最上位の考え方として定めたいので、入学してくる生徒、保護者の皆さんにも、どういう教育をやる学校なのかというのを端的にあらわしたいというのがこの主眼です。

そういう意味では、増淵委員に先ほど御発言いただいたように、スローガンという言葉ではなくて「海を通して世界を知る」。例えば加茂水産の教育目標ですと、海・船・水産物のプロフェッショナルの育成というのが教育目標にございまして、その下に、その説明、解説があります。

ですので、事務局で考えているときには、教育理念を目指すべきものとして、理念に対して目標を定めている。やらなければいけない目的に対して目標を定めているという体系にしていますので、教育目標が一番上になってしまうと、やるべき目標、何が目的で目標を定めているのかというのがわからなくなってしまうので。その目的という言葉にすると、学校の設置目的とかとなっていってしまいますので、それは教育基本法に書かれているとおりです。学校としての個別の目的は教育理念とかビジョンとかという形で表現をしたいということから、教育理念という言葉を使わせていただいた次第です。

増淵委員のおっしゃるように、教育理念として「海を通して世界を知る」にして、その説明を、先ほどの海洋の保全、海洋の活用への高い意識云々というつなぎにする。先ほど言ったような、加茂水産高校のような形に変えてしまう。それを達成するための目標として、今五つありますけれども、この五つに加えて、丹羽委員から御発言ございました、大島のみならず、というような内容や、全てに国際が入るといったニュアンスの内容を入れて、教育目標が七つあるとかという構成にするのはよろしいかなと、この議論の場においては考えます。

【出張委員長】今の方向でいいですかね。私もそんな感じかなと思っていたんですけども。

スローガんで余りうたっていないんですよね。それは、学校が動き出してから、校長先生などがすばつと言いたいで、やる場合があるので。

これはやっぱり理念なんでしょうね。ここの教育理念で書かれている文章が教育理念を具体的に説明をしている。

【増淵委員】そのとおりだと思うんです。だから、もう少しわかりやすい言い方で言うと、この学校でどんな子を育てたいんだという、端的にそれが示されていればいいのかなと思

ます。大島海洋国際では、やっぱり海ということフィールドにしながら、世界で活躍できるような、そういった子供を育てたいんですという、そういう育てたい生徒像がここにぼんと出ているのだと思います。それを実現するために、もう少し下位として、どういう力を身に付けさせるのかというのが教育目標のところに出ていて、それを今度は具体の教育課程で、例えば先程の学科なのか、類型なのか、そういう構造にしていけば非常にわかりやすくなっていくのではないかなと思います。

【出張委員長】 よろしいですか。この辺でちょっと、また整理していく形で。

【事務局】 はい。

【出張委員長】 今、事務局の方でまとめていましたけれども、教育理念とスローガンのところでもっと端的に。キーワードは、もう大体出ていると思いますので。

【事務局】 はい。

【出張委員長】 それから、教育目標のところ、これ以外にちょっと加えるもの、あと二つぐらいあると話も出ていますから、それを加えていく形ですかね。

【事務局】 はい。

【出張委員長】 ほかに、こういうところを加えた方がいいのではないかと、あれば出していただきたいんですけども。

【丹羽委員】 まず、こういうスローガンというか、教育理念を掲げている学校自体が大島海洋国際だけなのではないかなと思うんですけども、やはり、入ってくる生徒が、自分がどういうことを期待されているかが明確にわかるようにした方がいいのかなと思います。今はどちらかというと、学校の教員だとか保護者向けにそういう言葉を使っているような感じがしたんですけども、入ってくる生徒が、自分はどういうことを期待されて、この学校ではどういうことが期待されているのかということをも明確にわかるような、そういうスローガンなり、そういう教育理念の方がいいかなと考えました。

【出張委員長】 そのような形でまとめていくという形で、いいですか。

【事務局】 それでは、基本的には教育理念として「海を通して世界を知る」で、その説明として、今、教育理念のところ記載させていただいている内容を、言葉をもう少しわかりやすくしていきます。今読みますと、海洋の保全、海洋の活用への高い意識と実践力を育成することで、以下同じというような文言になっているかと思いますが、議論の中ではないかと思いますが、それで一度整理をさせていただき、かつ、教育目標の部分については、先

ほども申し上げましたけれども、五つに加えて、大島のみならずといった観点の文言、それから、国際が全体に係っているんだということがはっきりと、学校、生徒、保護者、教員にわかるような内容にするというようにしたいと思います。

ちなみに、「スマートで、目先が利いて、几帳面、負けじ魂、これぞ船乗り」という言葉がございまして、船乗りにとっては、シーマンシップという言葉はよく出てきますけれども、シーマンシップの根源となるような言葉かなとも思います。

大島海洋国際高校の「海を通して世界を知る」という言葉がシーマンシップとしての言葉のようになればいいなというようにも感じます。そういった意味でも短くする、これを理念に持ってくるというのは、その形で修正をさせていただきたいというように思います。

【出張委員長】事務局からそういう方向を示すということによろしいですか。

【増渕委員】あと、教育目標の方ですけども、「目指す」「実践する」「養う」「推進する」、ちょっと桁がばらばらかなという感じがするので、目標的な記述にされた方がいいかなと思います。ちょっと細かいですが。

【事務局】はい、承知しました。

【出張委員長】ほかに、どうでしょうか。

細かいところも、あれば出してもらいたいと思います。

大方よろしいですかね。

そうしましたら、事務局の方でもう一回整理して、方向性は大体いいのではないかと思います。その桁の部分や文言などを整理して、もう一回示してもらう形でお願いできればと思いますので、よろしくをお願いします。

【事務局】承知しました。

【出張委員長】それでは次に、議事の2番目の方に移りたいと思います。

資料4のところですが、教育理念から考えられる検討中の具体的なキャリア像という案について。

これについては、今日はこんな方向ですよというのを示すぐらいで、今日のもの、ちょっとまだ固まっていないですからね。それから見えてくるのはこんなものなのかなと。

先ほど、江藤委員が言った部分につながってくるのではないかと思います。将来的に、生徒がどうなっていくかというところについて、事務局から説明をお願いします。

【事務局】それでは、資料4について御説明をさせていただきます。

本日、これまで御議論いただいた内容について、大筋、違っているということがないかと思しますので、基本的には、教育理念、教育理念を達成するための教育目標、それに合わせた教育の実践、その先のキャリア像というのは全てセット、インプット、スループット、アウトプットを全部セットだというふうに思っていますので、キャリア像についてもある程度意識をしながら話を進めたいという趣旨から、本日、検討中のキャリア像について御説明させていただきます。

キャリア像については、国や都に求める社会的要請、生徒・保護者のニーズ等から、都立高校として具体的に定めていく必要があると思います。これまでの類型等ではこうしたキャリア像が明確にされていなかったもので、是非、明確にしたいという意図でございます。

前回の検討委員会でも御説明させていただきましたとおり、海洋立国である我が国の海洋産業に、首都東京の都立高校として、計画的に人材を輩出する必要があるという観点から考えてございます。資料4、中段以下にございますような、四つの海洋人材像を育成すべきなのではないかということで検討を進めている次第です。

キャリア像の一番左側から御覧ください。主に海上輸送などの物流や研究、環境保全などの海洋諸産業を支えるための船舶系人材、これは海洋人材としての基礎になるのではないかと思います。船舶系人材の具体例といたしましては、航海士、船舶管理者、海上保安庁職員などが想定されるのではないかと考えてございます。

次に、その右側でございますが、これは養殖などの資源増殖、蓄養や鮮度保全などについて安全と生産性向上を図る。また、水産分野におけるバイオテクノロジーの勉強であるとか、海洋環境保全、海洋生物の生態系維持など、我が国の食文化としても重要な海洋生物等の海洋資源の保全と活用を担う人材の育成を目指すとしたものです。具体的には、水産庁職員であるとか水産加工会社、それから、水産研究に携わる機関等が考えられるかと思えます。

次に、右から2番目、左から3番目でございますけれども、そうした船舶や水産の基礎となる港、東京港を擁する世界有数の港である京浜港や、その取引港となる世界の港湾、日本の港湾を支える港湾人材の育成でございます。各種港湾整備計画の策定や、実際の港湾整備及び管理を担う人材を想定しております。具体的には、港湾計画や港湾管理を担う公的機関の職員、関係機関の職員、港湾整備を担う海洋工事関連業者等を想定しています。

最後に、一番右でございますけれども、これは広く海洋に関わる諸課題を国際的な広く多様な視点で捉え、考え、解決できる人材を育成することを想定しています。具体的には、海

洋に関する力を更に磨くため、海洋系大学への進学、海洋関連諸機関、海洋や水産といった関連する水産経済をグローバルに支える商社などの会社等を、将来のキャリア像と捉えています。

左側三つのキャリア像は主にスペシャリストの育成、一番右側は海洋に関するジェネラリストの育成というイメージでございます。

説明は以上でございます。

【出張委員長】ただいま、教育理念（案）から考える具体的なキャリア像で、今、検討中の内容なんですけど、こういう四つのキャリア像があるのではないかとということで説明がありましたが、何か御質問とか御意見等ありましたら、お願いしたいと思います。

【事務局】少し説明補完させていただいてもよろしいでしょうか。

【出張委員長】どうぞ。

【事務局】現在、大島海洋国際高校は、海洋系と国際系となっておりますけれども、海洋系の中でも、この左の三つに当たるような内容というのは、学校の努力によりまして、行われている実態がございます。

一番右側のところが、イメージでいうと国際系の、もう少し海洋国際としてやるべきことを具現化したような内容になるかと思えます。どういう学科にしていくかとかということも含めまして、この後、作業部会の方で検討していきたいと思えますが、まだ検討中の内容でございますので、委員の皆様から御意見を頂きまして、次回の検討以降にまた御提示させていただきたいと思っております。

【出張委員長】いろいろ御意見をいただいて、こんな視点が足りないのではないかとか、こういうキャリア像もあるのではないかなどあれば、挙げていただければと思うんですけども。

【初宿副委員長】本当に字面だけで申し訳ないのですがけれども、ここの資料の中で、一番右側のところだけ大学、進学というのが出てきます。一つ、この進学、大学への進学という切り口で見たときに、ほかのコース、ほかのキャリア像というのがどうなのかな。ちょっと極端な物の見方をすると、大学への進学が一番右側のコースだけなのかという感じがします。誤解かもしれないんですけども、そういう捉え方があるんですけども、進学という部分からしたときには、事務局ではどのように考えているのか、お聞かせいただければと。

【事務局】学校さんの考えもあろうかと思えますけれども、学校さんと話をして、まだこれ

もほとんど議論もできていない状況ですが、左の三つというのは、もちろん、海洋系の大学等に進学することも前提の中には入っておりますが、将来のキャリア像としては、途中で大学を通すことも可能ですし、大学を通さずにいきなり就職していくということも可能である、そういうスペシャリスト人材を目指していく。一番右のところについては、まだまだ、もう少し学んで、進学をして、広く海洋系の課題に対応するような人材になってほしいということから、まずは進学を目指していくのではないかというような話を少ししている段階です。

【出張委員長】 よろしいですか。

【初宿副委員長】 山寺先生の御意見を伺えますか。

【山寺委員】 現在の海洋国際高校を見ていますと、直接就職する生徒はさほどいないので、何らかの、大学だけに限ったことはないんですけども、上級の学校に行って資格を取ったりということが必要になってくると私は思っております。

したがって、これをぱっと見た感じ、左側三つがすぐに就職なのかというように見えますけれども、一定程度、海洋に関することとか海に関することに就職するというのは、それなりの資格を持っていないと就職できませんし、資格を取ったところで、一人前になるのに数年掛かったりするものが多いので、上級学校への進学というのは、どこにいても一定程度ターゲットにしていきたいなどは思っています。

【出張委員長】 よろしいですか。

ほかに何か、御質問とか、こうした方がいいんじゃないかとかありますでしょうか。

【丹羽委員】 では、一番右の海洋系大学への進学というのは、むしろ海洋系大学というのは左の三つ側に海洋系の大学という形になって、この一番右は、海洋系大学にこだわらなくても、普通の大学というか、こだわらなくてもいいのではないかなというふうには思います。

【出張委員長】 そういう御意見がありますけれども、ほかに、どうですか。

それでは、基礎的なところを質問させてください。

一番左側とすると、航海士、船舶管理者や海上保安官と、具体的な進路が書いてありますが、やはり高校段階で航海士とか取らせるようにしているのですか。

【山寺委員】 現状では、航海士、大型の船の航海士は、高校卒業と同時に取れません。

【出張委員長】 二級とかも、全然取っていないのですか。

【山寺委員】 資格が取れるのは、小型船舶だけなので、大型の資格は上級の学校に行かないと取れません。

【出張委員長】これ、全部取れない。船舶管理者とか。

【山寺委員】船舶管理者というのは、またちょっと別の意図で書いていますよね。資格とかというものではない。

【事務局】船の安全運航を担当する陸上側の支援者。これまで別の問題として、大島海洋国際の現状の中で改善してきたものにもありますけれども、国がそういう人材を必要だと、今、声高に言っている人材です。

【出張委員長】それはここで無理なんですよ。

【山寺委員】行く行くはということですね。

【出張委員長】だから、進学していかなければいけない。取るのは難しいと考えればいいですか。

【山寺委員】取るというか、なるのには一定の経験と知識が必要になってきます。

【事務局】航海士、海技士、例えば海技士資格を取るためには、現状、大島海洋国際高校では取れません。

【出張委員長】取れないでしょう。

【事務局】大島海洋国際高校で、ある意味、なりたいという意識、意欲の醸成であるとか、そのための事前の訓練のようなものを現在はしている状況だと思います。その後に、海上技術短期大学校、あるいは海洋系の大学に進学をして、あるいは他校の高校の専攻科に進学をして、海技士資格を取る。海技士資格を取った後も、校長先生おっしゃったとおり……

【出張委員長】一定の経験。

【事務局】取ったらすぐに免許を持って車のように運転できるというわけではありませんので、様々な経験、スキルを磨いて、少しずつ海技士としての力を身に付けていくというのが通常かと思います。そういうキャリアを描いて高校段階での教育をやるという前提で、ここはちょっと記載してあります。

【出張委員長】わかりました。

何が言いたかったかといいますと、一番右側だけ「海洋系大学」と入っている。それ以外は、これだけだとあたかも、全然知らない人が見たら、この高校を出ればすぐこういう職業に就けるというように読めるので、やはり上のところに、どこに次行かなければならないかという観点では、海技大学ですか、何か大学校とか、そういう経路があるのであれば、具体が少し入っていると、こういうところを通って行って将来こういうのになるんだなというも

のが、イメージがよりはっきりしてくると思うんですね。

【事務局】承知しました。

【出張委員長】そういう観点で見ると、2番目のところ、養殖、これはどういう進路なのかなど。水産加工会社とか。これは就職を意識しているんですか。

【事務局】これも、丹羽委員の先ほどの御発言ではないですけども、いきなり就職して、できる、できないというのもあると思いますし、ちょっと水産関連のことについては、先生やオブザーバーで来ていただいている先生にお話しいただいた方がいいかと思うんですけども、これも決していきなり就職しなければいけないというわけではございません。将来的にこういうところで活躍してほしいという意味で記載しています。

【出張委員長】その辺、具体的なところで、すぐ就職できるものもあっても私はいいと思っているんですよ。何も進学するだけではないですから。ここに来る子が、ああ、ここをあれすればこういうことになれるんだなというイメージができるように。多分、どこでも、四つともみんな、進学しようと思えば進学することは可能なことだと思いますが、即仕事に就く方がいてもいいわけだから。完全に左側なんて、即就職につながっていないですよ。その辺をはっきりしたほうがいいのではないかなと思います。

【事務局】はい。

【出張委員長】そこを調整すると明確になると思うんです。

ほかにどうですか。

田島委員、いかがでしょうか。

【田島委員】いや、今言っていることがもっともなので。

【出張委員長】そうになっていた方がより入ってくる子たちにとって、こういう夢が湧くのではないかと思います。

【丹羽委員】先程も言いましたけれども、地域、離島振興とか地域振興みたいな観点も少し入っているとどうかなと思いました。

【出張委員長】そういうのをちょっと加えていくという形で。

【事務局】はい。

【出張委員長】増淵委員、何かございますか。

【増淵委員】この分け方、どういうふうに分けているのかなって、ちょっといろいろ考えていて、キャッチフレーズ的にいくと、一番左側って船舶、船、主に船とかという、そういう

イメージでしょうか。それから、2番目が魚とか。3番目は港かなとか、何かそのような気がします。大体それで、一番右側は世界とか、何かそんなイメージでしょうか。特に日本は全て国境が海なので、そういった意味で世界かなと思ったりします。

これで大体、海洋に関する教育として網羅できているように思います。これは全部に共通するのかもしれないですが、例えば自然環境などは随分、気象条件などいろいろ関わってくるので、それはどこに入るかなとか。それから、今お話のあった地域や離島振興といったところかなと思っていました。この四つ以外ないのかなというのはちょっと今考えていたのですが、大体網羅されているかなという感じがしますけどね。

【事務局】まだ検討段階ですので、庁内、学校の専門部会の皆さんなどとも議論をしなければいけないと思いますが、現時点では、増渚委員のおっしゃるとおり、大きく海を支える人材として船、それから、海洋資源の中心となってる水産資源、それから、そういったものを支える港湾というのを切り口としまして、ほかにも、例えばエネルギー問題、海洋エネルギー問題であるとか、海洋資源、鉱物資源、レアアースですとか、そういったものの研究であるとか、まだ産業につながっていないようなもの、それから環境問題、海洋ごみとか、そういったものもあるかと思います。そういうものについては、生徒の興味・関心に応じて、一番右側のところで課題設定をしながら勉強していくとかということが考えられるのではないかというようなことについては、少し、まだ全然決まっていないのですけれども、議論しているところでございます。

【出張委員長】この後、作業部会等で具体を更にもんでいくということですので、今日、いろいろな視点から御意見を頂いて、それも踏まえながらやっていきたいということですので、きたん忌憚のない御意見を出していただければと思います。

【江藤委員】先ほど、丹羽委員がおっしゃったのですが、この学校を目指して来る中学生に対してメッセージ性を持たせるには、こう書かれたものをどのように示すことができるのかなということを考えなければいけないと思います。

それからまた、我々設置者側の視点、それから、それを運営する側の教員の視点というのは、こう書かれていると、非常にわかりづらいですね。

だから、今、増渚委員もおっしゃいましたけれども、これはこういうことですかねって確認していましたが、よく理解するのが、難しいなというのを感じます。最後にまとめ上げるときには、そういう視点を是非とも入れていただきたいと思います。

【事務局】 はい。

【出張委員長】 ほかにいいですか。大体出尽くしていますかね。「海を通して世界を知る」って確かにそうで、出ていくことはあわしているのですが、来てもらうこともあるという、一つのマリン産業などは考えてないんですかね。せつかく船があった時に、具体例が良くないのかもしれないけど、ハワイにしたって、いろいろな島国がありますけど、そこでの観光というのも、やっぱり海があるからであって、陸ではできないですね。資料に書かれているようなことを目指す子もいるかもしれないですが、もっと広い視点を持ってあげないと、そういう教育を小学校・中学校でしてきていると思うんです。やはり大人が考えたような感じがして、夢というか社会の情勢を見ながら、何か考えているんですか。そういう方向性ではないんですか。

【山寺委員】 海洋レジャー関係の話。

【出張委員長】 海洋なんですよ。 「海を通して世界を知る」だから。

【山寺委員】 そういう意味で言いましたら、学習指導要領の教科水産の中には、かつては入っていなかったのですが、今はマリンスポーツとか、ダイビングが教科水産の中には入っています。本校でも、そういう意味では、授業の中で一部マリンスポーツを入れていたり、ダイビング、潜水については、海洋系の生徒には、しっかりやっているというところは、現時点でもあります。

【出張委員長】 一つの例なんですけど、非常に今豊かな社会になっている中で、非常にお役人的な資料で、硬いんですよ。その辺も少し考えてください、事務局で。

【事務局】 はい。

【丹羽委員】 大島海洋は、これから未来に向けて、広い世界に向かっていくというイメージが良いのかなと思います。

【出張委員長】 ほかにいかがですか。もし御意見があれば。その辺も踏まえて検討してもらいたいなと思います。いいですか。

【田島委員】 P T A代表で来ているということもあるんですが。やはりさっきおっしゃっていただいたとおりもっと分かりやすく、やはり中学の生徒もそうですし、親も実際に見るものですので、もっと分かりやすく興味を湧くようなイメージにしていただけるとうれしかないと。

【事務局】 承知しました。

【出張委員長】はい、山寺委員。

【山寺委員】先ほど委員長がおっしゃったような内容であれば、海洋レクレーションとか海洋レジャー関係に、そういったものを支える指導者などというのは左から2番目の海洋資源の活用を担う人材、この中に入ってくるのかなと思います。今後検討して、入れていくのであれば、ここは「など」でくくられていますので、こういうところにそういうことも視野に入れながら検討していきたいと思います。

【出張委員長】いかがですか、ほかに。よろしいですか。今いろいろな御意見を頂戴致しましたので、この後、作業部会でキャリア像の検討を進めていただくとともに、次は学科の類型等の在り方とか学校の規模ですね、それから仕組み、その他教育に必要な環境整備などについても作業部会の方で御議論いただいて、次回以降の検討委員会でお示しいただいて、皆様に御議論いただければなと思っております。時間が少し早いですが、本日の議事につきましてはこれで終了させていただきたいと思います。最後に、その他ということで事務局からお願いします。

【事務局】はい。次回、第3回の検討委員会についてですけれども、2月14日水曜日の午後には開催を予定しております。時間・会場等につきましては、同じく都庁内の会議室で、昼間の時間を想定しておりますが、詳細は追って御連絡をさせていただきます。先ほど委員長からもございましたとおり次回の委員会では、本日宿題となりました教育理念、教育目標の確定をさせるということ、それからそれに基づいた学校の在り方、学科や類型の見直しも含め、学校の仕組みや環境作り等についても、できる限り幅広く議論させていただければと考えております。以上でございます。

【出張委員長】はい。今事務局から説明がありましたように、2月14日に第3回をやるということで、繰り返しますが、今事務局が言った内容について作業部会で検討し、またこの委員会に提出してもらおうという形で進めていきたいと思います。本日は年末のお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。これで第2回検討委員会を終了させていただきます。